

学習支援サークル「学びサポート企画部」の意義 ～学習関連のイベント企画を通して～

松尾優輝¹⁾、木本実佑²⁾、成本 奏¹⁾、村中みなみ³⁾、東 穂香³⁾、峯松明日香¹⁾、
森 稼頭人²⁾、近藤 薫⁴⁾、長町裕征⁴⁾、塩川奈々美⁵⁾、吉田 博⁵⁾

- 1) 徳島大学理工学部 2) 徳島大学生物資源産業学部 3) 徳島大学総合科学部
4) 徳島大学附属図書館 5) 徳島大学高等教育研究センター

1. はじめに

徳島大学サポート系サークル「学びサポート企画部」は、「大学生の日々の学習における躓きに対して、学習支援を行うとともに、学習をするために必要な基本知識・技能を習得する機会を創ることで、大学生の学習スタイルの向上、改善を行う」という理念のもと、学生 8 名と図書館職員 2 名、教員 2 名で活動している (2025 年 11 月現在)。主な活動は、学習相談 Study Support Space (以下、SSS) の企画、運営であり、徳島大学生の学習に関する相談に対応することに加え、相談に対応する教員や大学院生にとっても有意義な取組であることが示されている¹⁾。また、学びサポート企画部は、学生と教職員による交流を通じた学びの場を創造するイベントを図書館等で企画・開催している。

本発表では、2025 年度に新たに実施した「情報検索 RTA (以下、RTA)」を紹介するとともに、SSS 及び 2024 年度の「討論会をしよう」²⁾、2025 年度の「新入生お悩み相談会」、「レポートの書き方講座」、「RTA」の各イベントの現状や成果等をもとに、企画運営の中心となった 2 年生 3 名が話し合いながら省察し、学びサポート企画部の意義について、議論を行った結果を報告する。

2. 情報検索 RTA

RTA は、学生が図書館を活用して自ら情報を探し出し、正確に理解・活用する力を養うとともに、他学部の学生との交流を促し、さまざまな分野への関心や学びの広がりを生み出すことを主な目的としている。2025 年 8 月 6 日に、開催し、常三

島地区の生物資源産業学部、総合科学部、理工学部の三つの学部から 1 年生 3 名が参加した。

RTA は、学生が与えられたお題 (設問) に対して、答え本の中から探し出す速さと正確さを競う知的イベントである。まず、参加者は用意されてある「言語学、哲学、美術、社会学、化学、生化学、英語、世界遺産」など多岐にわたる分野のお題カード (図 1) から好きな分野のカードを選び、そこに書かれた空欄問題に自分の知識だけで挑戦する。わからない場合は、図書館の蔵書検索システム (OPAC) を用いて関連する本を探し、実際にその本を開いて答えの根拠を見つける。内容を理解しながら空欄を埋め、スタッフに答えを確認してもらい、正解すれば次のお題に進むという流れを繰り返す。この一連の手順を通して、より多くの“お題”に取り組めた人を表彰した。

RTA 終了後にイベントへの参加を通して身にいた力を問う設問 (4 件法) では、「図書の探し方」は、全員が身についたと回答し、「チームワーク

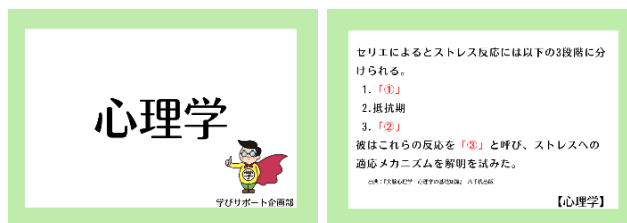


図 1 お題カードの例



図 2 イベント実施風景

力」は、2名が身についた、1名は少し身についたと回答した。「文献を読む力」、「要点をつかむ力」については回答にばらつきがみられた。これは、実際に本を探して読み解くという体験を通して、学生が情報探索力や読解力を自然に伸ばすことができたことを示している。

3. 学びサポート企画部の意義

次に、企画運営の中心となった2年生3名が、SSS及び4つのイベントについて、共通する目的を整理し、成果等を考察することで、次の4つの意義を見出した(図3)。

1つ目は「大学生の大学生活を支援すること」である。これは、新入生のお悩み相談会における、大学生活を円滑にスタートできるように履修を含む様々な相談に応えることであり、レポートの書き方講座では、大学の学習に必要なレポート作成の基本的な知識を提供することが当てはまる。

2つ目は「学生の能力を伸ばすこと」である。これは、討論会の目的の1つである、考えをまとめるための言語能力を伸ばすことや、SSSにおける、具体的な質問対応から、将来の進路や大学院での研究の話、英語の資格取得に向けた学習支援などが当てはまる。

3つ目は「コミュニケーションの機会を提供すること」である。特に新入生は、人間関係づくりに不安を抱える人が多いため、その機会を提供することを目的としてお悩み相談会を開催し、RTAでは、ゲームを通してチームワークを高めることを目的としていた点が当てはまる。

4つ目は「先生とのつながりを構築すること」である。SSSにおける雑談を含む幅広い内容の相談対応に加え、各イベントでは教員をゲストに招待し、交流や意見交換をする機会を設定していた。



図3 企画運営の中心となった3名による省察

これは学びサポート企画部が企画してきたすべてのイベントに共通している方針である。

これらの結果から、学びサポート企画部の意義は、「大学生の学び」をテーマとした活動を通じて、学習支援と大学生の視野を拓げるお手伝いをするることであると考える。これらの裏付けとして、各イベントにおける参加者アンケートの記述から次のような回答が得られている。レポートの書き方講座では、「レポートの書き方の注意点がわかった」、「言葉の使い方や因果関係についての話が知れて良かった」という意見が挙がっており、RTAからは「図書館に親近感が持てた」、「いろいろな分野に興味を持てた」という意見が挙がっている。このように、企画するイベントの効果が示されている一方で、レポート書き方講座では「オンラインで実施してほしい」、「広告や場所がわかりにくい」などの意見もあり、学びサポート企画部の活動の効果は、大学全体からみれば限定的であるという課題もあることも分かる。

4. まとめ

今回の議論において、学びサポート企画部は4つの意義を有していることが明らかになった。しかし、イベントごとの広報力を強化することに加え、学びサポート企画部やその活動の認知度を高める必要があると考える。例えば、レポートの書き方講座やお悩み相談会は、新入生にとってニーズが高い企画であることから、毎年恒例のイベントにすることも考えられる。また、RTAなどのように、参加者が楽しみながら新しい知識を得ることができ、図書館の利用促進にもつながることから、定期的開催する意義があると考えられる。

参考文献

- 1) 仲村真樹、吉原 祥、桐畑尚真、中島由衣、佐藤孝之、國見裕美、塩川奈々美、吉田 博 (2023) 「徳島大学における学習支援 Study Support Space の存在意義」、第18回大学教育カンファレンス in 徳島発表抄録集、16-17.
- 2) 東 穂香、峯松明日香、森 稼頭人、木本実佑、松尾優輝、桐畑尚真、近藤 薫、長町裕征、塩川奈々美、吉田 博 (2024) 「学生による討論会企画の成果と課題」、第20回大学教育カンファレンス in 徳島発表抄録集、32-33.